

特別賞

私達から発信する福島

蒼明学院中等部2年

たけち むつみ
武智 睦実

近年、SDGsについての話題をよく耳にする。SNSも発達し、話題が広まりやすくなっているのも理由の1つだと考えた。SNSが広まると同時に、物事についての風評被害も増えている。その1つが、福島県原発事故だ。東日本大震災以降、復興作業が進み、今では住んでいる人たちにも無害の土地に戻りつつある。しかし、原発事故という衝撃的な話題が人々に根強く残り、福島には放射線がたくさんあるという意識はなかなか改善されていない。

私はこの現状をどうにかできないかと思い、福島について調べてみた。福島には今、除去土壌というものが大量にある。マイナスなイメージが強いせいで、除去土壌も引き取りがあまり進んでいないとあった。

そこで私は、除去土壌をエネルギー源に変えられないかと考えた。SDGsが重要視されている今、土を活かしてエネルギーを生み出せば、福島についての風評被害が少しでも薄まるのでは、と思いついた。調べてみると、現在は開発中だが、「ボタニカルライト」という、植物と共生する微生物が生命活動をする際、微力だが電気が生まれ、それをエネルギーにできるものがあるそうだ。それを見て、除去土壌がある場所で「ボタニカルライト」を大量に設置すれば、除去土壌から電力を集められ、植物も増えるから地球温暖化の抑制にもつながると考えた。生物を使って有害物質を除去することを「バイオレメディエーション」と

呼ぶ。例えばヒマワリは、放射性汚染物質の吸収に強い力を発揮することがわかっている。除去土壌で植える植物がヒマワリなら、除去土壌の放射線濃度も薄くなると考えた。また、あたり一面のひまわり畑ができれば、それを見にやってくる人も増えるだろう。そうなれば、福島＝放射線のような考えの風評被害もまた薄れるだろう、とも考えた。

私は他に、学生が福島放射線について討論できる機会を作れば良いと考えた。このチャレンジワードは、福島県民以外からも応募がたくさん集まっている。同じ学校の中でも、全く同じことを書いている人は誰ひとりいない。違う意見を出し合い、討論し、より良い解決策が導き出せるのなら、学生たちの議論があってもいいと考えた。

私は、このコンテストに応募すると言われたとき、正直何もアイデアが思いつかなかった。そもそも、言われないと考えたこともないような問題について、アイデアは出てこない。だから、注目を集めそうなものを作れば、多くの人の目に入り、それぞれが問題について考える機会にもなると思う。

私達は、話題にならないと考えることがとても多い。誰かがなんとかしてくれるという意識があるかぎり、どんな問題も解決はしない。だからこそ、問題に気づいた人たちから発信するということが大事なのではないか。問題に気づいた、私達が発信をしていかなければならない。